

トルコ語における過去形の反復義務構文<sup>1</sup>

鈴木唯 (東京大学大学院・修士課程)

suzuki.yui.s.y@gmail.com

【要旨】トルコ語には、直接体験の過去を表す接尾辞-DI がある。興味深いことに、この接尾辞がついた過去形を反復することで、「～した方がよい」という義務的モダリティを表すことができる。本発表では、この用法を反復義務構文と呼ぶ。この構文について、トルコ語の参照文法である Lewis (2000) や Göksel and Kerslake (2005) では言及されていないため、記述的研究が必要である。そこで本発表は、構文文法の観点から、この反復義務構文の音韻構造、形態統語構造、意味構造を詳しく記述する。さらに、反復義務構文は、「もし当該の義務行為が実現しなかった場合、どのような良くない事態が起きるか」を表す表現と共起することが多く、この表現と定型表現をなしていることを示す。こうして、本発表は、反復構文や義務表現などの類型論的研究に貢献すると同時に、言語研究において、音韻構造、形態統語構造、意味構造の情報を対応させ記述する重要性を示す。

## 1 はじめに

トルコ語<sup>2</sup>には、直接体験の過去を表す接尾辞-DI がある。興味深いことに、この接尾辞がついた過去形を反復することで、(1) のように、「～した方がよい」(英語なら had better) という義務的モダリティを表すことができる。本発表では、この用法を「反復義務構文」と呼ぶ。

- (1) *İlaç*            *iç-ti-n*            *iç-ti-n*.  
 medicine    drink-PST-2SG    drink-PST-2SG  
 「君は薬を飲んだ方がよい。」(lit. 「君は薬を飲んだ飲んだ。」)

反復義務構文は、非常に興味深い現象であるにもかかわらず、先行研究ではほとんど言及されていない。特に、以下の4点で反復義務構文は興味深く、理論的に重要性がある。第一に、過去接尾辞であるに関わらず、過去を表さない。第二に、言語形式の繰り返しという操作を含む。第三に、過去接尾辞-DI 以外の他の時制形式において、反復で義務を表現する用法は見られない。第四に、反復義務構文は、書き言葉コーパスでも実例が観察され、広告などでもよく使われる表現である。しかし、トルコ語の時制体系を扱う Yaman (2017) に少し記述があるのみで、トルコ語の参照文法である Lewis (2000) や Göksel and Kerslake (2005) では言及されていない。そのため、反復義務構文について、記述的研究が必要である。

そこで、本発表は、過去形の反復義務構文について、コーパス (TS コーパス <https://ts corpus.com/>) およびエリシテーションによって得たデータを基に、構文文法・構文形態論の観点から、その形式と意味の記述を行う。その上で、反復義務構文は、完全な反復形式とはいえ、重複の特徴をもつことを示す。さらに、反復義務構文は、「もし当該の義務行為が実現しなかった場合、どのような良くない事態が起きるか」を表す文と共起することが多く、この共起表現を含んだ定型表現を成していることを示す。

<sup>1</sup> 本稿の作成にあたって、青山和輝、浅岡健志朗、氏家啓吾、熊代敏行、高城隆一、長屋尚典、萩澤大輝、菱山湧人、西村義樹、山本恭裕の各氏から有益なコメントをいただいた。また、特に出典のない例文は、Faruk Keles (男性・40代・イスタンブル出身)、Gökçenur Güner (女性・20代・イスタンブル出身)、五十嵐 Müge (女性・30代・イズミル出身) の各氏に判断していただいた。各氏に深く感謝を述べたい。言うまでもなく本稿に残るいかなる誤りも発表者の責任である。

<sup>2</sup> トルコ語は、チュルク諸語オグズ語群に属する。基本語順は SOV で、膠着語タイプの言語である。母音調和と子音交替があるため、本発表で扱う接尾辞-DI も複数の異形態をもつ。

本発表の構成は、以下の通り：第2節では、反復義務構文の形式と意味について構文文法の立場から、詳しく記述する。第3節では、反復義務構文を含む定型表現について明らかにする。第4節では、トルコ語における過去接尾辞-DIの諸用法の中に反復義務構文を位置づける。第5節は、結論である。

## 2 反復義務構文の形式と意味

反復義務構文は、過去形を反復することで、「～した方がよい」という意味をもち、構文文法 (Goldberg 2006; Hilpert 2014; Booij 2010 など) でいうところの構文である。すなわち、「様々な複雑度と抽象度で慣習化された、形式と意味の対」(Goldberg 2006) である。

本節では、この反復義務構文について、構文文法、特に構文形態論 (Booij 2010) の観点から詳しく記述する。具体的には、音韻構造 (第2.1節)、形態統語構造 (第2.2節)、意味構造 (第2.3節) の観点から記述する。Booij (2010)<sup>3</sup> は、構文の記述の際に、音韻構造と形態統語構造という形式に関する2つの情報と、意味構造が必要であり、この3つのレベルは対応関係を結んでいると考えている。

### 2.1 反復義務構文の音韻構造

反復義務構文は、一回目の過去形で上昇し、二回目の過去形で下降するという特徴的な音調パターンを持つ。このことは、反復義務構文と反復強調構文 (反復することで強調する構文) とを比べてみるとわかる。(2) および図1、図2を見よ。図1、図2は、母語話者に発音してもらったものをPraatで分析した結果である。

- (2) *Ev-im-e gel-di-n gel-di-n.*  
house-1SG-DAT come-PST-2SG come-PST-2SG  
「君は私の家に来た方がよい。」(反復義務構文)  
「君は私の家に来た。」(反復強調構文)

(2)の前者の解釈は反復義務構文であり、図1にその音調を示す。一回目の過去形でピッチが上がり、二回目の過去形で下がる。図1からわかるように、二つの過去形の間にはポーズがあるため、二つの音韻語と分析する。一方、(2)の后者の解釈は、反復強調構文であり、図2にその音調を示す。反復義務構文とは異なり、一回目の過去形で音調が上がっておらず、二回目の過去形で下がっていない。

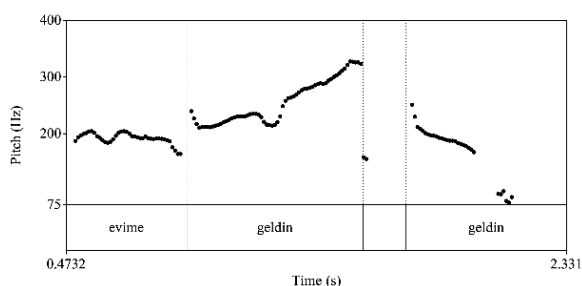


図1: 反復義務構文

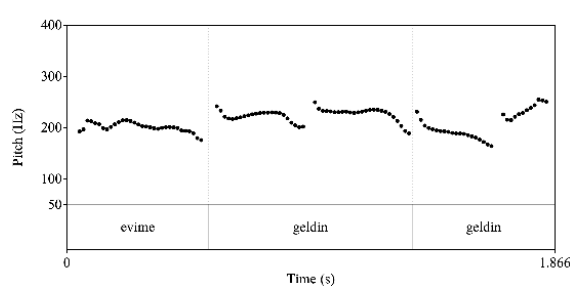


図2: 反復強調構文

### 2.2 反復義務構文の形態統語構造

本節では、反復義務構文の形態統語的特徴について詳しく述べる。第一に、(3)のように、二つの同

<sup>3</sup> Booij (2010) の構文形態論は、Jackendoff (2002) の Parallel Architecture の考えを取り入れている。Parallel Architecture は、音韻論、統語論、意味論それぞれが自律的な組み合わせの要素であり、インターフェイスによって繋がられているという考えである (Jackendoff 2002)。

じ動詞の過去形部分を繰り返す。ただし、動詞を三回以上反復することはできない。

- (3) *Beşiktaş-a git-ti-m git-ti-m.*  
Beşiktaş-DAT go-PST-1SG go-PST-1SG  
「私はベシクタシュに行った方がよい。」

第二に、反復義務構文は、文の極性について制限がある。(4) のように、否定の接辞がついた過去形の反復では、反復義務構文は成立しない。もちろん、通常の過去の解釈としてなら、文法的である。

- (4) *\*Beşiktaş-a git-me-di-m git-me-di-m.*  
Beşiktaş-DAT go-PST-NEG-1SG go-PST-NEG-1SG  
意図した意味: 「私はベシクタシュに行かない方がよい。」

第三に、反復義務構文は、主語の人称・数に関して特に制限がない。トルコ語は、主語の人称・数に合わせて動詞が変化するが、(5) からわかるように、主語についてすべての人称と単数・複数の組み合わせで反復義務構文が成立している。また、(6) のように主語は、一般名詞でもよい。

- (5) *İlaç iç-ti-{m/k/n/niz/ø/ler} iç-ti-{m/k/n/niz/ø/ler}.*  
medicine drink-PST-{1SG/1PL/2SG/2PL/3/3PL} drink-PST-{1SG/1PL/2SG/2PL/3/3PL}  
「私/私たち/君/君たち/彼(彼女・彼ら)/彼らは薬を飲んだ方がよい。」

- (6) *Cocuk ödev yap-tı-ø yap-tı-ø.*  
child homework do-PST-3 do-PST-3  
「子供は宿題をしたほうがよい。」

第四に、動詞の選択について、自動詞・他動詞の区別に関して制限はない。(3) は自動詞が使われている一方で、(5)(6) は他動詞が使われている。いずれの場合も、反復義務構文は成立している。

最後に、反復義務構文における過去形は、屈折した語の繰り返しであるため、統語的操作、つまり反復であるといえる。反復義務構文の二つの動詞はそれぞれ、過去接尾辞と主語一致接尾辞がつき、屈折した語形である。屈折は語形成の後で生じると想定すれば、二つの動詞の過去形は二つの語であると分析できる。その点で、語の内部で言語形式を繰り返す形態論操作である重複とは異なる。

一方で、反復義務構文においては、二つの過去形の間に形態的緊密性がある。過去形と過去形の間に他の要素が入ることはできない。(7) では、終助詞 *ya* が過去形と過去形の間に挿入されており、反復義務構文は成立していない。この他のどの要素でも、二つの過去形の間に挿入することはできない。もちろん、通常の過去解釈の文としてなら、他の要素を挿入することができる。

- (7) *\*Beşiktaş-a git-ti-im ya git-ti-im.*  
Beşiktaş-DAT go-PST-1SG EMP go-PST-1SG  
意図した意味: 「私はベシクタシュに行った方がよい。」(反復義務構文)

## 2.3 反復義務構文の意味構造

反復義務構文の意味は「～した方がよい」という義務的モダリティを表す。ここまでの例文からわかるように、主語の指示対象には過去形の動詞が表す内容を行う義務があることを表す。

さらに、主語が無生物の場合も、その主語指示物が「～の状態になった方がよい」という意味で、反

復義務構文は成り立つ。(8) では、主語が無生物である。*açıl*「開く」という動詞は、*aç*「開ける」という他動詞から、受け身の接尾辞がつくことによって、自動詞に派生した動詞である。

- (8) *Kapı aç-ıl-dı aç-ıl-dı.*  
 door open-PASS-PST open-PASS-PST  
 「ドアは開いた方がよい。」

ここまで、便宜的に「～した方がよい」と訳してきたものの、反復義務構文は、この訳以上に強い義務的モダリティーを意味する場合がある。また、主語が二人称の場合（つまり、発話行為として発話する場合）、脅しや忠告のような発話の力 (illocutionary force) がある。たとえば、(9) では、話者が聞き手に忠告しており、脅しの発話の力がある。

- (9) *Ödev-i yap-tı-n yap-tı-n.*  
 homework-ACC do-PST-2SG do-PST-2SG  
 「宿題をなさい。」(母親が子を叱っている場面)

(10) は、たとえば、最後通牒的<sup>4</sup>な発話の力がある。「今買わなければいけない、そうでなければ、最後の安売りのチャンスを逃す」のような意味が生じる。

- (10) *Al-di-n al-di-n.*  
 buy-PST-2SG buy-PST-2SG  
 「買いなさい。」(売り手がお客に言う場面)

トルコ語には、この構文とは違う通常の義務表現 (*V-mEll*, *V-mEk gerek* など) がある。しかし、これらの義務表現に対して、反復義務構文には、強い脅しや最後通牒的な発話の力がある。反復義務構文が強い脅しや最後通牒的な発話の力が生じることについては第 3.3 節で詳しく述べる。

このように、反復義務構文は、過去形の反復という形式で義務モダリティーを表し、形式と意味の関係は恣意的である。この形式から当該の意味を予測することは不可能であり、構文と分析するべきである。

## 2.4 まとめ

以上の議論から、反復義務構文の構文スキーマは、Booij (2010) の構文形態論の表記法にならい、(11) のようにまとめることができる。左から順に、音韻構造、形態統語構造、意味構造を表す。

- (11) 反復義務構文の構文スキーマ:  
 $\langle [\omega_j \uparrow \omega_k \downarrow]_k \leftrightarrow [[V_i\text{-PST-SBJ}]_j [V_i\text{-PST-SBJ}]_j]_k \leftrightarrow [\text{had better SEM}_i]_k \rangle$

< と > の中は、一つの単位を成す構文であることを表す。 $\leftrightarrow$  は、それぞれのレベルが対応関係にあることを示す。音韻構造と意味構造も (11) の図で  $\leftrightarrow$  で結ばれていないものの、表記していないだけで対応関係にある。 $i$  と  $j$  と  $k$  は、異なるレベル間の同一指標を示す。音韻構造において、 $\omega$  は音韻的語を表す。図 2 からわかるように、二つの過去形の間には長いポーズがあるので、二つの音韻語と分析した。

<sup>4</sup> ここでいう最後通牒は、字義通りの意味ではなく、強い命令を表す。Davies (1986) や Takahashi (2012) は、英語の「or 型条件命令文」(e.g., *Buy now, or you'll regret it.*) を強い命令として扱っており、Davies は特に「最後通牒」という用語を用いた。

矢印の向きは音調の上がり下がりを示す。形態統語構造において、V は動詞を、PST は過去接尾辞-DI を、SBJ は主語一致マーカ―を表す。意味構造において、SEM は形態統語構造における変項の V の意味を表す。

この3つのレベルは、相互に関連しあっている。例えば、形態統語構造における動詞 V の選択は、意味構造から制約される。つまり、主語が指す対象が「～した方がよい」という意味構造に当てはまる動詞を選択することができる。(12) では、ağla「泣く」という動詞が使われており、一見、義務の解釈は得られないように見える。しかし、「泣かなければ、父さんが許してくれないだろう」というような特定の状況を想定すれば、義務の解釈が得られる。

- (12) Ağla-dı-n ağla-dı-n.  
cry-PST-2SG cry-PST-2SG  
「君は泣いた方がよい。」

さらに、(11) に提示した構文スキーマにより、反復義務構文が反復と重複の両方の特徴を持つことをうまく捉えることができる。Gil (2005) による反復（統語的操作）と重複（形態的操作）を区別する基準によれば、反復義務構文は、二つの過去形がそれぞれ独立した二つの音韻語であり、屈折した語の繰り返しである点で、反復の特徴をもつ。しかし、反復義務構文は、完全に反復とはいえず、以下に挙げる3点の重複の特徴を持つ。第一に、二つの過去形の間に形態的な緊密性がある。第二に、過去形を三回以上繰り返すことができない。第三に、意味が恣意的である。このように、反復義務構文は反復と重複という二分法で捉えきれない。(11) のようにスキーマとして言語知識に蓄えられていると考えられる。

こうして、Booij (2010) による音韻構造、形態統語構造、意味構造という3つのレベルから成る構文の理論を採用することで、反復義務構文の特徴を上手く捉えることができる。

### 3 反復義務構文とその共起表現

反復義務構文には、さらに興味深い特徴がある。コーパス検索の結果、(13) のように、「もし当該の義務行為が実現しなかった場合、どのような良くない事態が起こるか」を表す表現と共起することが分かった。本節では、この共起表現についてコーパス調査 (第 3.1 節) とエリシテーションデータ (第 3.2 節) に基づいて詳しく述べる。

- (13) İlaç iç-ti-m iç-ti-m, yoksa daha kötü ol-ur-um.  
medicine drink-PST-1SG drink-PST-1SG otherwise more bad be-AOR-1SG  
「薬を飲んだ方がよい、さもないければ、もっと悪くなる。」

#### 3.1 共起表現についてのコーパス調査

反復義務構文についてコーパス調査を行った。コーパス調査には、TS コーパス (<https://tscorpus.com/> 2019/04/25) の TS コーパス V2 を利用した。TS コーパス V2 は、品詞タグと形態素注記がついており、CQP syntax によって検索ができる。総語数は、491,360,398 語である。インターネット上のオンライン記事、フォーラム、ブログなどのテキストをリソースとしている。

反復義務構文の例文を得るにあたって、以下の3つの問題点があった。(i) 正規表現によって同じ動詞の過去形の連続を検索することができず、過去形の連続を検索するしかないため、同じ動詞の連続だけでなく異なる二つの動詞の過去形の連続を含めた例が出る。(ii) 同一の記事が複数のサイトに掲載されるなどの理由で、まったく同じ例文がいくつも抽出される場合がある。(iii) タグ付けの仕様上、過去

形を検索した際、過去形以外の特定の形式も引っかかる。

そこで、調査は以下のように行った。まず、CQP syntax で、「[PosTag=“Verb” & Morph=“.\*Past.\*”]{2}」で検索し、異なる動詞の過去形の連続を含めたエクセルの最大行にあたる 1,048,576 例を抽出した。次に、上記の 3 つの問題は以下のように処理した。(i) 二つの異なる動詞の過去形が連続する例文を関数計算によって排除した。(ii) 重複した例文をデータツールで排除した。(iii) 過去形以外の特定の形の例文を手作業で排除した。こうして、同じ動詞の過去形が連続した 98 例を抽出した。そこから、反復強調構文 90 例を手作業で排除し、反復義務構文 8 例を得た。反復強調構文なのか、反復義務構文なのかは文脈から判断し、曖昧なものは母語話者に判断してもらった。

その反復義務構文 8 例のうち、(13) のように「もし当該の義務行為が実現しなかった場合、どのような良くない事態が起きるのか」を表す表現と共起しているのは 6 例、何も後続せず文が終わる反復義務構文は 2 例あった。このように、コーパス検索の結果、ヒット数が少ないとはいえ、そのうちのほとんどの反復義務構文は、特定の条件とその帰結が後続していることがわかった。

### 3.2 共起表現の特徴

本節では、エリシテーションで得たデータを基に、この反復義務構文と「もし当該の義務行為が実現しなかった場合（条件）、どのような良くない事態が起きるか（帰結）」を表す表現の共起について詳しく記述する。第一に、条件及び帰結部分は様々な形式が許される<sup>5</sup>。条件部分について、(13) では *yoksa* 「さなければ」という句が使われていた一方で、(14) のように、*iç-mez-se-m* 「飲まなければ」という節でもよい。帰結部分について、(14) のように、*felaket* 「ヤバイ」という語でもよい。

- (14) *İlaç*            *iç-ti-m*            *iç-ti-m,*            *iç-mez-se-m*            *felaket!*  
medicine    drink-PST-1SG    drink-PST-1SG    drink-AOR.NEG-COND-1SG    disaster  
「薬を飲んだ方がよい、飲まなければ、ヤバイ！」

第二に、母語話者によると、(15) のように、「もし当該の義務的行為が実現した場合、どのような良い事態が起きるか」という表現は反復義務構文に後続することができない。

- (15) *\*İlaç*            *iç-ti-m*            *iç-ti-m,*            *iç-ir-se-m*            *çok*    *iyi*    *ol-ur-um.*  
medicine    drink-PST-1SG    drink-PST-1SG    drink-AOR-COND-1SG    very    good    be-AOR-1SG  
意図した意味: 「薬を飲んだ方がよい、薬を飲めば、とてもよくなる。」

このように、反復義務構文に後続する条件及びその帰結は、様々な形式がみられる一方で、「もしその義務的行為が実現しなかった場合、どのような良くない事態が起きるか」という意味を表す表現になる。

### 3.3 定型表現としての反復義務構文

反復義務構文は、この後続する共起表現を含めた全体を 1 つの単位とする定型表現であるかもしれない。これに関して、興味深い点が 2 つある。第一に、母語話者によると、共起表現が後続せず反復義務構文のみの場合も、「もし当該の義務的行為が実現しなかった場合、どのような良くない事態が起きるか」が想起されるという。このように悪い結果が想起されるため、第 2.3 節で述べたように、強い脅しや最後通牒的な発話の力を持つ。第二に、母語話者に反復義務構文について尋ねると、「(条件と帰結が

<sup>5</sup> 興味深いことに、条件の部分が *iç-me-di-m* drink-NEG-PST-1SG 「飲まなかった」のような否定接尾辞のついた過去形でも、「飲まなかったら」という条件を表すことができる。反復義務構文以外では、過去形がこのような条件の意味を持つことはありえない。

後続しない反復部分だけでも) この表現は『条件』(トルコ語では “şart”) を表す」と答える。この2点は、上記の共起表現がなくとも、定型表現としての反復義務構文が形式には表れていない条件と帰結を想起させることに起因するかもしれない。定型表現全体で示唆される最後通牒的な意味が反復義務構文に慣習化されはじめている可能性がある。

#### 4 過去接尾辞-DI における反復義務構文の位置付け

過去接尾辞-DI が過去を表さない用法は、反復義務構文以外にもある。鈴木 (2018)、Suzuki (2019) では、トルコ語の過去接尾辞-DI が未来解釈を持つ場合について記述した。この未来解釈用法では、過去接尾辞-DI をこれから起こす行為やこれから起きる事象に対して使うことができる。両者は、過去を表さないという点が類似している。しかし、反復義務構文は、必ず二回反復しなければならず、通常の過去形とは異なる音調をもつ点で未来解釈用法とは異なる。さらに、主語の人称・数に関して、未来解釈用法には制限がある一方で、この反復義務構文には制限がない。この二つの用法は、意味の面でも異なる。

したがって、反復義務構文は、未来解釈用法とは異なる構文であると考えられる。つまり、両者は同じ接尾辞-DI の過去形であるが、反復義務構文は、構文による強制で、義務の解釈を得ている。

#### 5 結論

本発表では、今まで注目されていなかった、トルコ語における過去形の反復義務構文について、構文文法の立場から、音韻構造、形態統語構造、意味構造を記述した。反復義務構文における動詞の繰り返しは、完全な統語的操作(反復)ではなく、形態論的操作(重複)の特徴をもつことを示した。さらに、反復義務構文は、特定の条件及びその帰結と共起しやすいことがわかった。

このようにして、本発表は、トルコ語の言語学的記述だけでなく、反復構文や義務表現などの言語類型論的研究に貢献した。また、構文の記述において、音韻構造、形態統語構造、意味構造の情報を対応させ記述する重要性を示した点で、本発表には理論的重要性がある。

【略号】 ACC-accusative, AOR-aorist, COND-conditional, EMP-emphasis, NEG-negation, PASS-passive, PST-past tense, PL-plural, PRES-present tense, SG-singular, 1-first person, 2-second person, 3-third person.

【参考文献】 Booij, Geert. 2010. *Construction Morphology*. Oxford: Oxford University Press./Davies, Eirlys. 1986. *The English Imperative*. London ; Dover, N.H: Routledge./Gil, David. 2005. “From Repetition to Reduplication in Riau Indonesian.” In *Studies on Reduplication*, edited by Hurch Bernhard, 31–64. Berlin: Mouton de Gruyter./Göksel, Ashi, and Celia Kerslake. 2005. *Turkish: A Comprehensive Grammar*. Oxon: Routledge Press./Goldberg, Adele E. 2006. *Constructions at Work : The Nature of Generalization in Language*. Oxford: Oxford University Press./Hilpert, Martin. 2014. *Construction Grammar and Its Application to English*. Edinburgh: Edinburgh University Press./Jackendoff, Ray. 2002. *Foundations of Language*. Oxford: Oxford University Press./Lewis, Geoffrey. 2000. *Turkish Grammar*. 2nd ed. New York: Oxford University Press./鈴木唯. 2018. トルコ語における過去接尾辞-DIの「未来」解釈用法—その出現条件とモダリティー性—. 日本言語学会第156大会. 東京大学. 東京. 2018. 6. 23-24./Suzuki, Yui. 2019. When the past tense suffix -DI means 'future': Toward a reconsideration of the modal system in Turkish. BA thesis, Tokyo University of Foreign Studies./Takahashi, Hidemitsu. 2012. *A Cognitive Linguistic Analysis of the English Imperative : With Special Reference to Japanese Imperatives*. Amsterdam: John Benjamins./Yaman, Ertuğrul. 2017. *Türkiye Türkçesinde Zaman Kaymaları*. Ankara: Türk Dil Kurumu Yayınları Press.